

板倉町が進めている環境にやさしいまちづくり 玉村町の住宅開発計画の参考に

こんな議案を審議しました

そこが聞きたい一般質問

委員会のつづき

その他

今回は、このメンバーで、環境にやさしいスマートシティタウンの分譲を開始した、邑楽郡板倉町を視察してきました。

委員長 柳沢浩一、副委員長 高橋茂樹、石内國雄、筑井あけみ、町田宗宏



42区画あるスマートシティタウン板倉東洋大前。必要な家電はすべて販売価格に含まれています。



平成9年開業の東武鉄道「板倉東洋大前駅」。

人口減少に 歯どめを！

玉村町の人口は、平成25年6月1日現在で約3万7200人。平成17年をピークに年々減少しています。人口減少に歯どめをかけることができるかどうかは、自治体共通の課題です。

板倉町の取り組みは…

板倉町は、群馬の最東端にある人口約1万5000人の純農村です。渡良瀬遊水地があり、水場の景観が国の重要文化的景観に選定されるなど、自然や文化的な資産・歴史資産など多くの観光資源があります。

しかし、人口が停滞していることから、町は県に積極的に交渉し、企業局による板倉ニュータウンの建設や、東洋大学・東武鉄道「板倉東洋大前駅」の誘致などを実現させました。

板倉ニュータウンでは、㈱ヤマダ電機が、必要なエネルギーはすべて太陽光によって発電し、光熱費ゼロの暮らしを実現する「スマートハウジング」を事業展開しています。

まとめ

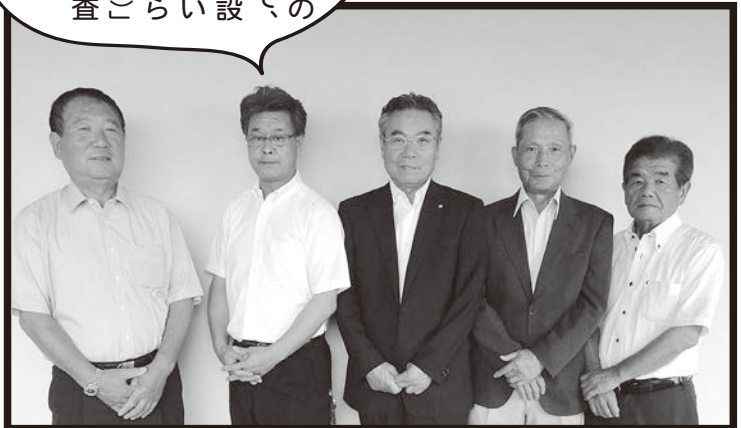
玉村町は、文化センター周辺に新たな住宅の建設を計画しています。東毛広域幹線道路の沿線であり、交通の便もよいこの地区を開発することにより、人口増を期待するものですが、家電最大手企業と連携している板倉町の取り組みは、今後の参考にすべきではないかと考えます。いろいろな方法を模索し、優良な住宅提供を期待したいと思います。



平成 27 年オープン予定の「たまむら道の駅(仮称)」 町活性化のため慎重な計画を

委員長 川端宏和、副委員長 笠原則孝、
斉藤嘉和、宇津木治宣、島田榮一

今回は、この
メンバーで、
玉村町が建設
を計画してい
る「たまむら
道の駅(仮称)」
について調査
しました。



道の駅が できる場所

平成26年に全線開通する東
毛広域幹線道路と、今年度完成
する関越自動車道「高崎玉村ス
マートIC」が交差する付近(上
新田地内)に建設される予定で
す。
町の産業・観光・文化の情報
発信基地として、また災害時に
は緊急避難施設として使用でき
ます。

どんな道の駅?

現時点では基本設計の段階なので、今後変更の
可能性もありますが、木造平屋建て、延床面積
は1200平方メートル程度になる予定です。
建物の中には、農産物直売所・農産物加工室・
休憩スペース・売店、また作品展示などができる
「たまたんギャラリー」があります。
災害時用として、断水でも使える防災トイレ、
EV充電器・非常用発電機・太陽光パネル(10キ
ロワット程度)・太陽熱集熱パネルなども配備さ
れます。実際の建設工事を始めるのは、平成26年
度になる予定です。



建設予定地

敷地全体で、大
型車22台、普通
乗用車約120
台がとめられる
駐車スペースが
できます。

まとめ

平成25年度から実施設計が始まり、
いよいよ本格的な建設段階に入ってい
く「たまむら道の駅(仮称)」ですが、
まだ経営主体がはっきり決まっていな
いことが気かりです。経営主体や
出店者を決め、意見を聞いた上で設
計すべきではないかと思えます。
今後の具体的な検討は慎重に進め、
町の活性化のためにも、よりよい道の
駅を建設してほしいと考えます。



完成予想図

建物の前は
イベント広
場になりま
す。